

平成25年度 事業計画書

特別養護老人ホーム 大慈弥勒園

1. ≪平成25年度法人ヴィジョン≫

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. ≪大慈弥勒園基本方針≫

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方やご家族に満足していただけるサービスを提供する。特養においては、認知症専門棟及び一般棟の特色を活かしたケアができる様努める。

3. ≪5カ年計画≫

●最終目標

- ①『ふあっとほーむな生活を目指す』

※ふあっとほーむとは、和みのある家庭的な雰囲気の中で、人と人とのつながりを大切にすること

- ②『一人ひとりが輝き、あなたが主役になる場所を目指す』

●中期目標

- ①経営理念やヴィジョンを全員が把握し、徹底していくことで特色ある施設作りができる。
- ②職員レベルを向上させプロ集団を形成すると共に、サービスの質を向上させる。

●25年度重点目標

- ①実施対象者のトイレでの座位排便の安定化を図る。
- ②紙おむつ代の削減を図る。(23年度比5%減)
- ③人材確保及び顧客確保のため、広報活動の推進を図る。
- ④老朽化による設備改修工事を適宜行う。
- ⑤介護福祉士資格取得支援制度の拡充を行う。

4. ≪ケア部門≫

<目標>

『実施対象者のトイレでの座位排便の安定化を図る』

☆日中オムツゼロへの取り組みとは

22年度より、介護専門研修(老施連主催で講師は竹内孝仁教授)に参加した事を機に、本格的な取り組みを開始した。具体的には、竹内理論(水・飯・クソ・運動)を基礎に、当園では、『日中の失排便がない状態にする』という定義を基に実施している。

これまでの介護現場は、寝たきりでオムツで入所してくれば、例外を除きそのままの状態を維持する取り組みを行ってきたが、介護職は本来、どのような方であっても自立支援を目指すべきであるが、そのような発想はなかった。これまでの現状を打破し、この取り組みを通して、介護職の専門性を向上させ、組織力を高めると共に、全ゲストに有意義な生活を送ってもらえる事を目的としている。

☆具体的数値目標（対象者）

- 水分摂取量・・・平均1,500ml 摂取
- 食事摂取量・・・平均9割摂取（常食）
- 便失禁率・・・平均30%減
- 歩行距離・・・平均100m
- 歩行回数・・・月300回
- 車椅子使用率・・・平均20%以下

○部門別目標

◎プラム棟：『便失禁率30%以下（ターミナル対応者は除く）』

- ①チーム力の向上
 - A) 組織的な報連相の確立
 - B) 職員一人一人の意識強化
- ②月間歩行回数500回、一日平均歩行距離100mの維持・向上
 - A) 過介助撲滅
 - B) 定期的な評価と改善
- ③食事摂取量1300Kcal、水分摂取量1500mlの維持・向上
 - A) 自力摂取促進
 - B) 定期的な評価と改善
- ④紙オムツ発注量5%削減
 - A) 夜間排便5%以下

◎一般棟：『対象者の便失禁率30%未満の達成』

- ①チーム力向上
 - A) 情報の共有化
 - B) 目標管理制度の強化
- ②常食への移行と水分量の増加
 - A) 食事アセスメントシートの活用
 - B) 平均水分摂取量1500mlの達成。
- ③運動数の3倍UPを目指す
 - A) 運動実施率の向上と定着
 - B) ゲストの意欲の向上
- ④紙オムツ発注量5%削減
 - A) 発注データの分析

5. <経営部門>

<目標>

- ①充足率99%維持を目指し、経営基盤の安定を図る。
 - A) 各部署等と共同し、ゲストの疾病予防策を検討して健康維持を図る。
 - B) 入所待機者との関わりを増やし状況を把握する。上位3名の面接を常に行い、スムーズな入所を目指す。緊急入所についても率先して行動する。
 - C) 総務部と共に経営分析を長期・中期的に行い健全な経営を維持する。
 - D) 介護福祉士の合格率100%を目指す。
- ②新たな加算取得を目指し収入アップを目指す。

- A) 認知症専門ケア加算の取得を目指す。
- ③紙おむつ代の削減を図る。(23年度比5%減)
 - A) 8,740,000円達成(23年度年間約9,200,000円)
- ④人材確保及び新規顧客獲得のため、広報活動の推進を図る。
 - A) ホームページをリニューアルし、情報量の増加及び「大慈園らしさ」をアピールする。
 - B) フェイスブックを活用し、リアルタイムな情報を発信し続ける。
- ⑤介護福祉士資格取得支援制度の拡充を行う。
 - A) 実務者研修費用全額支給
 - B) 登録研修機関の申請・登録

6. <<相談援助部門>>

<目標>

- ①自立支援に向けたケアプランの作成
 - A) 生活の質の向上
 - ・各種療法(学習、園芸、音楽)の実施と検証を行う。
 - B) 生活歴に対する情報収集の拡充
 - ・ご家族やゲストから、必要な情報を入手する。
 - C) 個別性を重視する
 - ・ケアマネジメント力の向上を図る。
- ②ゲスト(入所者・家族)からの『喜びの声』を集め、職員のモチベーションアップや施設サービス向上へつなげる。
 - A) サービス調査の実施(年1回)
 - B) 喜びの声を聞いた時は、朝礼や会議等を通じて発表する。

7. <<理学療法科>>

<年間計画内容>

座位排便の定着に向けて、1・3F運動部門との連携を密にする事で、メニュー作成時より参加し、日中の排便を促せる運動項目の設定をすることで、オムツゼロに向けた取り組みができればと考えている。

<実践目標>

- ①個別機能レベルの評価
 - A) 生活対応の見直し(個別対応)・・・年2回
 - B) 残存機能レベル評価・・・年2回
- ②座位排便の定着
 - A) 運動部門への提言
 - ・メニュー作成へのアドバイス
 - ・機能状態に応じた運動項目の立案
 - ・状況に応じて変更や見直し
 - B) 現場対応策の提言・・・随時(年2回のリスク研修等)

8. <<看護部>>

<目標>

- ①誤薬を未然に防止しダブルチェックの徹底を図る
 - A) 業務全般特に服薬管理の既存方法からどのような誤薬事故に繋がったのか原因及び

要因分析を行い再発防止に努める。

B) 誤薬事故の原因及び要因分析結果を看護師全員が共有して早期の段階で対策を講じることができる。

②尊厳ある安らかな最期を(ターミナルケア)を実践する。

A) 看取り対象の段階になった場合には、早期の段階で介護支援専門員に連絡し、家族へのインフォームドコンセントを前提に、連絡調整することができる。

B) 看取りに付随する諸問題を予測し、後に施設と家族間で訴訟やトラブル等に進展しないように、十分なインフォームドコンセントを行う。

<年間業務>

月	項目	内容
5月	弥勒園 (1回目) ゲスト定期検診	胸部 X 線、採血
6・7月	弥勒園全職員定期検診	胸部 X 線、採血、検尿、検便、心電図、腰椎 X 線 (CW のみ)
11・12月	ゲスト・全職員	インフルエンザ予防接種
	弥勒園 (2回目)、ゲスト定期検診	胸部 X 線 採血等
1月	弥勒園 (CW のみ) 定期検診	腰椎 X 線 (CW のみ) 採血、検尿

<週間診療表>

曜日	午前 午後	医師名	診療科目	頻度
月	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
火	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週
水	午前	真継 猛	整形外科	毎週
	午後	松浦 肇	皮膚科	月 2 回
		櫻林義雄	歯科	毎週往診
木	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	坪内淳一	内科	毎週
金	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	坪内淳一	内科	毎週
		森 啓行	糖尿内科	毎週
土	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週

※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診。

9. <<栄養科>>

<目標>

①自立支援理論実施による全員常食化をめざす

A) 食事形態アセスメントシートを活用し、他職種で評価決定し情報を共有する。

B) 各部署の部門チームと情報を交換する。

C) 食事形態アセスメントシートの項目を見直し、更新する。

②食生活の質を向上

A) 各フロアと厨房の調整

- ・情報収集と他職種との意見交換を行う。

- ・各部署の食事部門と情報を共有する。

B) ゲストの嗜好にあった食事計画の実施

- ・ゲストのメニューアンケート結果から食事計画を実施する。
- ・各フロアの特徴を生かした食事計画を継続して実施する。
- ・ゲストの喜びの声を集める。

③集客につながる情報を発信

- A) 継続して情報発信をする。
- B) 月1回、広報材料について検討し、次月の計画をする。

10. <<環境整備計画>>

建物や設備の老朽化に伴い、施設環境整備を行う。

- ①ボイラー設備等の入れ替え工事
- ②居室内環境の改修工事
- ③配膳車の購入

11. <<大慈弥勒園の特徴>>

①入浴

- A) 特浴（週2回）→座位式の機械浴にて、寝たきりの方でも安心して入浴できる。
- B) 中間浴（週2回）→家庭用の浴槽を使用し、職員がマンツーマンで対応する事で、認知症の方や障害をお持ちの方でも安心して入浴できる。
- C) 一般浴（週2回）→主に自立歩行者を対象とし、循環式の大浴場にて、安心して入浴できる。

☆ゲスト個々の状態に合わせた入浴形態を考案・実施する。

②排泄

- A) トイレ誘導→オムツ外しを積極的に行い、ゲスト個々の尿間隔に合わせた援助を行う。
- B) オムツ交換→定時4回交換実施。排泄アセスメントから個々の尿量に合わせてオムツの種類を決定し、個別援助を行う。

☆ゲスト個々の状態に合わせて随時サービスを考案・実施する。

③食事

- A) ホールで食べて頂く事を基本とし、ゲスト個々の状態に応じて、ソフト食・スルー食等を提供する。
- B) 四季を感じる行事食と選択メニューを実施する。
- C) 疾病に応じた療養食を提供する。

④生きがい作り

- A) お誕生会を従来型（月毎に全員実施）から、生まれたその日にお祝いする。
- B) ご家族との交流の場を提供する（家族食事会等）。
- C) 四季を感じる行事食と選択メニューを実施する。
- D) 地域との交流を促進する。
- E) おやつ作りを実施する。
- F) 音楽療法・園芸療法・くもん式学習療法・化粧療法を実施する。

⑤機能回復訓練

- A) 機能回復訓練士が、随時リハビリを行う。
- B) 機能回復訓練士の指導のもと、生活リハビリを行う。
- C) 生活リハビリを積極的に行いADLの維持 向上を目指す。
- D) 食事は、ホールにて食べて頂く事を基本とし、離床を促す。

1 2. 《職員配置》ショート含む定員 1 1 5 名

施設長	副施設長	生活相談員	機能回復訓練士	介護支援専門員
1 名	1 名	2 名	1 名	1 名
看護職員	管理栄養士	介護職員（正職）	介護職員（パート）	
9 名	1 名	2 5 名	2 6 名	

1 3. 《委員会活動等》

	内容
委員会名	大慈園事故再発防止委員会及び医療的ケア検討委員会
頻度・時間等	毎月第二水曜日 1 4 時～1 6 時
目的・内容等	事故発生防止のための指針に基づき、マニュアル作成・事故報告書の検討・職員研修等を検討・実施する。又、部署内で、事故検討委員会を設置し、事故の再発防止を図る。
目標等	①付き添い・見守り時の事故発生率 0 % ②レベル変化に伴う適切な対応策が事前に行える。 ③立案した伝達方法により情報の共有が出来る（報・連・相の検討・改善） ☆研修会→7 月・9 月・2 月の年 3 回予定

	内容
委員会名	大慈園サービス向上委員会
頻度・時間等	毎月第三水曜日 1 5 時～1 6 時
目的・内容等	大慈園のサービスに関する、苦情処理・食事・入浴・排泄・看取り等の検討及びアンケート調査・研修を通じて職員の資質向上を図る。
目標等	①各委員会の情報交換及び共有化を図り、顧客満足度の向上を目指す。 ②職員個々のスキルアップと苦情・相談に対しての適切な処理方法の習得。 ③職員の精神的安定を図り職務に対する意欲の向上。 ④虐待事例についての研修会を行う。 ☆研修会→5 月・1 1 月の年 2 回予定

	内容
委員会名	大慈園感染症防止対策委員会
頻度・時間等	毎月第三水曜日 1 4 時～1 5 時
目的・内容等	感染症・食中毒の予防・まん延防止に関する指針に基づき、マニュアルの見直し・標準予防策・職員研修等を検討・実施する。
目標等	①園内での感染症発症率 0 % ②報連相の確立 ☆研修会→7 月・2 月の年 2 回予定

	内容
委員会名	大慈園人事委員会
頻度・時間等	年 4 回開催
目的・内容等	人事評価結果から、全職員の検討を行う。又、人事制度に関する検討を行う。
目標等	基準に則した正しく公正な評価及びトータル人財システムの推進。 ☆研修会→5 月・3 月の年 2 回予定

	内容
委員会名	大慈園給食委員会
頻度・時間等	毎月第一水曜日 16時～17時
目的・内容等	栄養科が中心となり、各部署の食事係が食事形態等について協議する。
目標等	①食事行事を通じ、生活の満足度を上げる。 ②アセスメントシートを活用し、他職種で取り組む。 ③食事行事を通じ、ゲストの状態を把握することができる。 ☆研修会→5月・11月の年2回予定

	内容
委員会名	大慈園行事委員会
頻度・時間等	毎月第三月曜日 14時～16時
目的・内容等	機関紙の編集・発刊や秋祭り・地蔵盆等の施設全体で行う行事の計画及び実行を行う。また、随時ホームページの更新も行う。
目標等	①機関紙『だいじの森』を年2回発刊する。 ②8月に地蔵盆を開催する。・・・地域住民が対象 ③11月に秋祭りを開催する。・・・ゲスト、ご家族が対象 ④9月・11月に近隣行事に露店を出店する。 ⑤その他の行事の開催及び職員交流会の実施をする。 ☆研修会→5月・11月の年2回予定

	内容
委員会名	大慈園マナーアップ委員会
頻度・時間等	毎月第四木曜日 15時～16時
目的・内容等	一般常識、慣例である言葉使い等をマニュアルを基に向上させる。
目標等	①全職員が気持ち良い挨拶を行い、ゲストやご家族が話しかけやすい環境作りを目指す。 ②外部から見られても恥ずかしくない環境を作り、安全な環境を作るよう職員全員が常に心がける。 ③部会・委員会を含む議事録の適切な書き方及び内容の記述が分かりやすく、適切に正規職員全員が書けるようになる。 ☆研修会→5月・11月の年2回予定

	内容
委員会名	大慈園看取り介護委員会
頻度・時間等	毎月第四月曜日 14時～16時
目的・内容等	看取り介護においての、カンファレンスや知識向上を行い、理念である「当たり前のあるがままの生活、我が家のような生活」ができる様環境作りを行う。
目標等	①尊厳ある安らかな最期を(ターミナルケア)を実践する。 ・様式の整備 ・ミニカンファレンス開催 ☆研修会→6月・10月・1月の年3回予定

	内容
委員会名	大慈園褥瘡防止委員会
頻度・時間等	毎月第四月曜日 14時～16時
目的・内容等	褥瘡や表皮剥離等の原因分析及び対策を検討し、職員の資質向上を図る。
目標等	①発生件数0件を目指す。 ・発生原因を取り除く、褥瘡について知る、治療の評価 ☆研修会→6月・10月・1月の年3回予定

	内容
委員会名	オムツゼロ委員会
頻度・時間等	毎月最終水曜日 15時～17時
目的・内容等	施設長以下、各専門職が協議し、ケア方針への助言、全職種での取り決め、協力体制の確保等を検討し、下剤を使用せず、日中の座位排便を目指す。(アテント式おむつでの排便ではなくトイレでの排便を目指す)
目標等	個別事例検討、全体データの向上、標準サービスの向上 ☆研修会→6月・10月の年2回予定

	内容
委員会名	大慈園非常災害時対策委員会
頻度・時間等	毎月第四水曜日 午後15時～16時
目的・内容等	非常災害時(地震、火災等)に対する防災意識向上や警戒発令時の敏速な対応等、総合的な推進を図り、被害の軽減を図る。
目標等	①毎月訓練を実行する。 ②災害発生後3日間の計画を作製し、それに基づいた訓練を実行する。 ☆研修会→8月・12月予定

	内容
委員会名	大慈厚生事業会 事業戦略推進委員会
頻度・時間等	毎月1回 13時～15時
目的・内容等	法人全体で行う事業戦略を検討する。
目標等	①トータル人材マネジメントシステム推進と評価。 ②法人採用計画に基づいた内容を実行。

研修会名	対象者・内容等	頻度等
①新人研修	新卒採用者及び中途採用者を対象	4月
②中途採用者研修	①を受講できなかった中途採用者対象	10月
③ステップアップ研修	次等級へ昇格するための研修	12月頃
④評価者研修	人事評価制度の役職者向け研修	4月頃
⑤人事評価制度研修	パートを対象	4月頃
⑥管理者研修	主任等の役職者を対象とした研修	年4回
⑦高齢者虐待防止研修	全職員(パート含む)を対象とした研修	年2回
⑧労働衛生研修	全職員対象	年1回

14. 《職員会議等》

頻度	会議名			
月1回	正副施設長会議	主任会議	369 会議	会計会議
	部門会議	事務部会	仏間会議	全体会議
随時	ケアカンファレンス	医務部会		

15. 《衛生》

害虫駆除（年2回）、口腔ケア（毎食後）、寝具交換（週1回）

16. 《苦情処理》

各部署に担当者を明記し随時受け付け口頭・書面で上司へ報告し敏速で確実な対応を行う。

17. 《月行事・行事食予定》

月行事	頻度	行事食	頻度
家族食事会、理髪、チェリッシュパン販売、たこ焼きパーティー	毎月1回	家族食事会、手作りパーティー	毎月1回
ミュージックセラピー	毎月曜日	行事食（赤飯）	毎月1日
パン販売	毎週水金曜日	おやつ作り	月1回
買い物外出、コーヒー喫茶、化粧療法、ビデオ上映会、カラオケクラブ、嚙下体操等、ラジオ体操、ボール運動、園庭散歩、くもん式学習療法、農園、園芸療法	月2回	選択食（朝食）	毎日
	随時	誕生会	誕生日、28日

18. 《年間行事・行事食予定》

月	年間行事	行事食	月	年間行事	行事食
4月	お花見	○	11月	焼き芋	○
5月	子供の日			寿司ツアー	
	母の日	○		井吹台西町祭り	
6月	遠足（回転寿司）		秋祭り		
	父の日	○	12月	忘年会	○
7月	遠足		クリスマス	○	
	七夕	○	1月	餅つき	○
3F 夏祭り		元旦（正月料理）		1日～3日	
8月	地藏盆	○		初詣	
	海上花火大会		七草粥	○	
	園庭花火		鏡開き	○	
9月	敬老の日	○	2月	節分	○
	櫛谷川祭り		3月	ひな祭り	○
10月	遠足（魚の棚）			遠足（グリコピア）	
	串揚げ				